



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月5日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 タカラトミー
コード番号 7867 URL www.takaratomy.co.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富山 彰夫
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員連結管理本部長 (氏名) 廣岡 勝史 TEL 03-5654-1548
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	59,479	11.0	4,597	10.6	4,965	35.6	3,392	35.3
2025年3月期第1四半期	53,586	24.3	4,157	65.9	3,661	57.1	2,507	38.8

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 1,558百万円 (△78.4%) 2025年3月期第1四半期 7,215百万円 (11.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	37.96	37.95
2025年3月期第1四半期	27.84	27.83

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第1四半期	158,153	101,717	64.3	1,146.75
2025年3月期	165,770	106,398	64.2	1,186.44

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 101,684百万円 2025年3月期 106,364百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	28.00	—	36.00	64.00
2026年3月期	—				
2026年3月期（予想）		32.00	—	32.00	64.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	125,000	3.6	11,500	△7.0	11,400	△4.1	7,500	△11.3	83.58
通期	260,000	3.9	22,000	△11.5	21,800	△9.3	14,000	△14.4	156.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期1Q	93,616,650株	2025年3月期	93,616,650株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	4,944,741株	2025年3月期	3,965,831株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年3月期1Q	89,350,664株	2025年3月期1Q	90,060,225株

(注) 当社は「役員向け株式交付信託」及び「執行役員等向け株式交付信託」を導入しており、株主資本において自己株式として計上されている「役員向け株式交付信託」及び「執行役員等向け株式交付信託」に残存する自社の株式は、1株当たり純資産の算定上、期末発行済株式総数より控除する自己株式に含めており、また、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

今後の見通しにつきましては、5ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

機関投資家・アナリスト向けの決算説明会につきましては、2025年8月5日にテレフォンカンファレンスにて実施する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	10
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(四半期連結損益計算書に関する注記)	12
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

(2026年3月期第1四半期連結累計期間におけるハイライト)

当社グループを取り巻く事業環境は、日本では、雇用・所得環境の改善に加え、インバウンド需要の増加等から、緩やかな回復傾向となりました。一方、世界的には、米国通商政策の影響による景気の減速懸念、金利・為替の変動や地政学的リスクによる影響等、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当社グループでは、年齢軸・地域軸を成長ドライバーとした事業戦略を事業環境の変化に合わせ推進するとともに、それらを支えるコーポレート戦略を相互に連携させることで、2030年3月期に売上高3,000億円、営業利益率10%の達成を目指しています。

当第1四半期連結累計期間につきまして、タカラトミーでは、ロングセラーブランド「デュエル・マスターズ」におけるVTuberグループ「にじさんじ」とのコラボ商品の展開や、「ディズニー・ロルカナ・トレーディングカードゲーム」のシリーズ展開によるKidults(キダルト)層をはじめとした幅広い顧客層の取り込みが奏功し、トレーディングカードゲームは前年同期を大幅に上回る実績となりました。2025年に55周年を迎えた「トミカ」では、「トミカプレミアム」「トミカリミテッド ヴィンテージ」をはじめとしたKidults層向け施策の推進もあり、子どもだけでなく大人へもファンが拡大していることに加え、5月に中国北京市にオープンした「トミカ キダルト セレクトストア」が人気を集めるとともに6月には「トミカ博2025 in TAIWAN」を開催するなど、日本・アジアを中心にさらなる成長を実現しました。現代版ベゴマ「BEYBLADE X(ベイブレードエックス)」においては、10月に開催される世界大会に向けた各種施策の効果もあり、堅調な推移となりました。

タカラトミーアーツでは、日本IPのグローバルでの人気を背景に、「ぬいぐるみ」や「ガチャ」等において、キャラクター商品を中心に幅広い年齢層からの支持を集めるとともに、国内外での人気が拡大しています。また、ポケモンミュージメントマシンにおいては、日本で昨年7月に稼働開始した「ポケモンフレンド」の人気が拡大したことに加え、アジアでは「ポケモンメザスタ」を4月より稼働し順調な立ち上がりとなるなど、前年同期を上回る推移となりました。

キデイランドでは、幅広いキャラクター商品を取り揃えたトレンド発信基地として、インバウンド需要やKidults層を中心とした高いキャラクター人気が続くとともに、4月にオープンした「新宿店」「名古屋パルコ店」「広島パルコ店」の新店効果も加わり、業績が拡大しました。

一方、アメリカズにおいては、米国通商政策による不透明感が高まる中、競争環境の激化もあり、主力のベビー用品の販売が減少するなど、低調な推移となりました。

これらにより、当第1四半期連結累計期間においては、タカラトミー、タカラトミーアーツ、キデイランドをはじめとした業績伸長により、売上高は59,479百万円(前年同期比11.0%増)と3期連続で過去最高となりました。営業利益は、売上高の増加に伴う売上総利益の伸長等により4,597百万円(前年同期比10.6%増)、経常利益は、為替差益を計上したこともあり4,965百万円(前年同期比35.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,392百万円(前年同期比35.3%増)といずれも過去最高を更新し、順調なスタートとなりました。

なお、当第1四半期連結累計期間における米国通商政策による影響は限定的だったものの、第2四半期以降は、仕入価格の上昇や世界経済の減速懸念等による影響が出始めるなど、先行きの不透明な状況が続くものと思われます。このような事業環境の中においても年齢軸・地域軸を成長ドライバーとした事業戦略を事業環境の変化に合わせ推進することにより「中長期経営戦略2030」の目標達成に向けた蓋然性を高めてまいります。

(経営成績の概況)

<セグメント別業績の概況>

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	増減	増減率 (%)
売上高	53,586	59,479	5,893	11.0
日本	46,521	52,269	5,747	12.4
アメリカズ	6,383	5,461	△922	△14.4
欧州	931	1,010	79	8.5
オセアニア	603	518	△84	△14.1
アジア	17,481	16,915	△566	△3.2
消去又は全社	△18,335	△16,695	1,639	—
営業利益又は営業損失(△)	4,157	4,597	440	10.6
日本	5,457	5,847	389	7.1
アメリカズ	△221	△254	△32	—
欧州	△261	△213	47	—
オセアニア	9	0	△9	△97.2
アジア	746	651	△94	△12.7
消去又は全社	△1,574	△1,433	140	—

<日本>

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	増減
売上高	46,521	52,269	5,747
営業利益	5,457	5,847	389

タカラトミーでは、2025年に55周年を迎えた「トミカ」において、新シリーズとなる「トミカ・プラレールブロック」シリーズや大人向けプレイセット「tomica+ (トミカプラス)」シリーズの展開により、年齢軸のさらなる拡大を図るとともに、「トミカ55周年自動車メーカーコラボプロジェクト」の商品展開を日本・アジアでスタートするなど地域軸の拡大も推進しました。「デュエル・マスターズ」では、VTuberグループ「にじさんじ」とのコラボ商品の展開や、「ディズニー・ロールカナ・トレーディングカードゲーム」のシリーズ展開によるKidults層をはじめとした幅広い顧客層の取り込みが奏功し、トレーディングカードゲームが前年同期を大幅に上回る実績となりました。また、スマートフォン向けアプリ「DUEL MASTERS PLAY'S (デュエル・マスターズ プレイス)」においても、Kidults層を中心とした多くのユーザーに向けた継続的な施策により、人気は拡大しました。

ハイターゲット向けホビーレーベル「T-SPARK」では、「トランスフォーマー」の国内販売および海外向けの出荷が伸長しました。また、5月に開催された「静岡ホビーショー」への出展に加え、7月開催の「Animation-Comic-Game Hong Kong 2025」および米国ロサンゼルスで開催の「Anime Expo®2025」への出展準備を行うなど、積極的なプロモーション活動を図りました。現代版ベージマ「BEYBLADE X」においては、10月に開催される世界大会に向けた各種施策の効果もあり、堅調な推移となりました。

タカラトミーアーツでは、日本IPのグローバルでの人気を背景に、「ぬいぐるみ」や「ガチャ」等において、キャラクター商品を中心に幅広い年齢層からの支持を集めるとともに、国内外で人気は拡大しています。また、ポケモンミュージックメントマシンにおいては、日本で昨年7月に稼働開始した「ポケモンフレンド」が累計プレイ回数1億回を突破するなど、人気は拡大したことに加え、アジアでは「ポケモンメザスタ」の稼働を4月より開始し順調な立ち上がりとなるなど、前年同期を上回る推移となりました。

キデイランドでは、幅広いキャラクター商品を取り揃えたトレンド発信基地として、インバウンド需要やKidults層を中心とした高いキャラクター人気は継続するとともに、4月にオープンした「新宿店」「名古屋パルコ店」「広島パルコ店」の新店効果も加わり、業績が拡大しました。

以上により、売上高については52,269百万円(前年同期比12.4%増)、営業利益は5,847百万円(同7.1%増)となりました。

<アメリカズ>

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	増減
売上高	6,383	5,461	△922
営業損失(△)	△221	△254	△32

米国通商政策による不透明感が高まる中、「The First Years」「Boon」をはじめとしたベビー用品においては、競争環境の激化もあり販売が減少しました。一方で、農耕車両玩具は前年同期を上回る推移となりました。これらにより、売上高は5,461百万円(前年同期比14.4%減)、営業損失は254百万円(前年同期営業損失221百万円)となりました。

<欧州>

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	増減
売上高	931	1,010	79
営業損失(△)	△261	△213	47

ガチャのフィギュアを袋に入れてブラインド(目隠し)で販売する「TWINCHEES(トゥインチーズ)」や農耕車両玩具が好調に推移したことに加え、ベビー用品が伸長したこともあり、売上高は1,010百万円(前年同期比8.5%増)、営業損失は213百万円(前年同期営業損失261百万円)となりました。

<オセアニア>

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	増減
売上高	603	518	△84
営業利益	9	0	△9

玩具市場全体が低調に推移する中、バストイをはじめとしたプリスクール玩具やパーティーゲーム「Pop-Up Pirate」が好調に推移したものの、農耕車両玩具等の販売が減少したことにより、売上高は518百万円(前年同期比14.1%減)、営業利益は0百万円(同97.2%減)となりました。

<アジア>

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	増減
売上高	17,481	16,915	△566
営業利益	746	651	△94

「トミカ」は、「トミカプレミアム」「トミカリミテッド ヴィンテージ」をはじめとしたKidults層向け施策を推進するとともに、5月に中国北京市にオープンした「トミカ キダルト セレクトストア」が人気を集め、さらに6月には「トミカ博2025 in TAIWAN」を開催するなど、日本だけでなくアジアを中心に販売が拡大しています。また、「BEYBLADE X」においては、韓国での盛り上がりが見込みに届いていないものの、その他地域では、世界大会に向けた各地での予選大会等の施策が奏功し、人気が高まりました。

一方、生産子会社であるTOMY (Hong Kong) Ltd.では北米向け商品の出荷が減少したこともあり、売上高は16,915百万円(前年同期比3.2%減)、営業利益は651百万円(同12.7%減)となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

[資産、負債及び純資産の状況]

<資産>

流動資産は、前連結会計年度末に比較して8,606百万円減少し、105,795百万円となりました。これは主として、商品及び製品、受取手形及び売掛金が増加した一方で、現金及び預金が減少したことによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比較して990百万円増加し、52,358百万円となりました。これは、無形固定資産が減少した一方で、有形固定資産、投資その他の資産が増加したことによるものです。

<負債>

流動負債は、前連結会計年度末に比較して1,980百万円減少し、48,952百万円となりました。これは主として、支払手形及び買掛金が増加した一方で、未払法人税等、未払費用が減少したことによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比較して955百万円減少し、7,483百万円となりました。これは主として、長期借入金、リース債務、引当金が減少したことによるものです。

<純資産>

純資産は、前連結会計年度末に比較して4,680百万円減少し、101,717百万円となりました。これは主として、自己株式の取得があったことや、為替換算調整勘定、繰延ヘッジ損益が減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2025年5月13日に公表のとおりであり、変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	56,163	42,594
受取手形及び売掛金	29,498	30,117
商品及び製品	19,979	23,939
仕掛品	696	843
原材料及び貯蔵品	1,326	1,350
その他	6,935	7,158
貸倒引当金	△196	△208
流動資産合計	114,402	105,795
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	14,989	15,976
減価償却累計額	△9,465	△9,388
減損損失累計額	△847	△849
建物及び構築物(純額)	4,676	5,738
機械装置及び運搬具	3,013	3,150
減価償却累計額	△2,473	△2,491
減損損失累計額	△35	△35
機械装置及び運搬具(純額)	505	623
工具、器具及び備品	29,371	29,959
減価償却累計額	△25,495	△25,941
減損損失累計額	△1,082	△1,105
工具、器具及び備品(純額)	2,793	2,912
土地	3,956	3,952
リース資産	7,370	7,764
減価償却累計額	△3,015	△3,156
減損損失累計額	△466	△481
リース資産(純額)	3,889	4,126
使用権資産	2,302	2,100
建設仮勘定	975	917
有形固定資産合計	19,099	20,371
無形固定資産		
のれん	11,140	10,345
その他	12,787	12,487
無形固定資産合計	23,927	22,832
投資その他の資産		
投資有価証券	3,890	4,223
繰延税金資産	2,125	2,377
その他	2,417	2,645
貸倒引当金	△92	△93
投資その他の資産合計	8,340	9,154
固定資産合計	51,367	52,358
資産合計	165,770	158,153

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,805	17,507
1年内返済予定の長期借入金	3,472	3,234
リース債務	3,506	3,481
未払金	10,253	8,628
未払費用	11,442	9,549
未払法人税等	4,423	1,692
引当金	685	526
その他	2,343	4,333
流動負債合計	50,933	48,952
固定負債		
長期借入金	700	—
リース債務	3,124	3,034
繰延税金負債	13	0
再評価に係る繰延税金負債	485	485
引当金	325	267
退職給付に係る負債	2,236	2,185
その他	1,552	1,509
固定負債合計	8,438	7,483
負債合計	59,372	56,436
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,459	3,459
資本剰余金	6,819	6,819
利益剰余金	77,781	77,934
自己株式	△6,578	△9,578
株主資本合計	81,481	78,633
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,979	2,120
繰延ヘッジ損益	809	355
土地再評価差額金	624	624
為替換算調整勘定	21,638	20,116
退職給付に係る調整累計額	△167	△166
その他の包括利益累計額合計	24,883	23,050
新株予約権	33	33
純資産合計	106,398	101,717
負債純資産合計	165,770	158,153

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	53,586	59,479
売上原価	32,721	36,122
売上総利益	20,865	23,357
販売費及び一般管理費	16,707	18,760
営業利益	4,157	4,597
営業外収益		
受取利息及び配当金	73	66
受取賃貸料	49	44
為替差益	—	343
その他	35	76
営業外収益合計	158	530
営業外費用		
支払利息	103	95
為替差損	455	—
その他	95	66
営業外費用合計	654	162
経常利益	3,661	4,965
特別利益		
固定資産売却益	0	1
特別利益合計	0	1
特別損失		
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	10	12
再開発関連費用	—	48
特別損失合計	10	60
税金等調整前四半期純利益	3,650	4,906
法人税等	1,143	1,514
四半期純利益	2,507	3,392
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,507	3,392

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	2,507	3,392
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△58	141
繰延ヘッジ損益	1,155	△453
為替換算調整勘定	3,636	△1,522
退職給付に係る調整額	△25	1
その他の包括利益合計	4,708	△1,833
四半期包括利益	7,215	1,558
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,215	1,558
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	アメリカズ	欧州	オセアニア	アジア	合計
売上高						
外部顧客への売上高	41,955	6,368	931	603	3,728	53,586
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,566	15	—	—	13,753	18,335
計	46,521	6,383	931	603	17,481	71,921
セグメント利益又は損失(△)	5,457	△221	△261	9	746	5,731

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,731
セグメント間取引消去	△368
全社費用(注)	△1,205
四半期連結損益計算書の営業利益	4,157

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	日本	アメリカズ	欧州	オセアニア	アジア	合計
売上高						
外部顧客への売上高	48,300	5,457	1,010	518	4,193	59,479
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,969	4	—	—	12,721	16,695
計	52,269	5,461	1,010	518	16,915	76,175
セグメント利益又は損失(△)	5,847	△254	△213	0	651	6,031

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	6,031
セグメント間取引消去	△18
全社費用(注)	△1,415
四半期連結損益計算書の営業利益	4,597

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書に関する注記)

再開発関連費用

当第1四半期連結累計期間において、当社所有の栃木県壬生町の土地再開発に伴い、テナント企業への移転補償金48百万円を再開発関連費用として計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	1,363百万円	1,831百万円
のれんの償却額	477	442